

東北海区沿岸水温予報(2007年)

海域	経過 (2~4月)	現況 (5月~6月上旬)	見通し (6~8月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	定線観測結果(太平洋) 3月:津軽暖流の各層水温は、0,50,100m層ともに平年より高め、水塊深度は平年よりかなり深い、津軽暖流の東方への張出し位置は平年並。 定地水温 2月:高い~極めて高い 3月:やや高い~高い 4月:やや高い~高い	定地水温 5月:やや高い 6月上旬:やや高い	津軽暖流の水温はやや高めで推移し、東方への張出しはやや東偏するものと思われる。	4~5月の日本海の定線観測結果では、対馬暖流の勢力は4,5月で平年並、6月でやや強い推移している。 定地水温は3~6月上旬までやや高い推移している。 よって、6月以降の津軽暖流の勢力は強まっていくものと思われる。	5月中旬、高瀬川の河口から700~800m上流のワカサギ網に、多数のアクラゲ(傘径10~18cm)が入網した。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水試発表)	2月 表面:100m深とも概ねやや高め 3月 表面:黒崎20海里から樺島50海里以西でやや高め~高め、トドヶ崎沖合でやや低めのほかは平年並 100m:黒崎10海里から樺島30海里以西でやや高め~高め、県中部30~40海里付近及び県中北部50海里付近でやや低めのほかは平年並 4月 表面:黒崎50海里付近で平年並のほかは概ねやや高め~高め 100m深:黒崎40海里から樺島10海里以西でやや高め~高めのほかは概ね平年並	5月 表面:トドヶ崎20~30海里から樺島20~50海里で平年並のほかは概ねやや高め~高め 100m:尾崎30~40海里でやや低め、黒崎50海里から樺島10海里以西でやや高めのほかは概ね平年並 6月 表面:黒崎50海里でやや低め、尾崎50海里及び樺島0~10海里でやや高めのほかは概ね平年並 100m:黒崎40~50海里付近で平年並のほかは概ねやや高め~高め	県北部 県南部でやや高め、県中部で平年並に推移する。	6月の定線観測結果では、尾崎定線以南で親潮系冷水の北退が顕著に認められている。また、100m深の平年偏差が全域でやや高め~高めで推移している。 さらに、100m深水温予測によれば県北部 県南部でやや高め、県中部で平年並との見通しとなったため。	5月末における県内主要5港の水揚げ状況をみると、カラフトマス、クロマグロ、スルメイカ、マダラの水揚げが好調で、冷水性及び暖水性の魚種が入り交じって好調な漁獲となっている。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水試発表)	2月には、表面水温は、8~14 台で平年並または平年より1~4 高めで、特に巨理沖合(38°N)ラインで高めであった。100m深水温は、気山沼沖合(39°N)ラインでは7~9 台で平年並であった。雄勝沖合(38°N)ラインでは、9~10 台で、平年より1~2 高めであった。巨理沖合ラインでは10~13 台で平年より1~4 高めであった。 3月には表面水温は、142°30'Eより岸側の海域では3~14 台で、概ね平年並または1~4 低めであった。142°30'E以東の海域では13~15 台で、平年より5~7 高めであった。100m深水温については、雄勝沖合ラインでは、3~9 台で平年より概ね1~3 低めであった。巨理沖合ラインの142°30'Eより岸側の海域では3~9 台で、平年より概ね1~4 低めであった。 4月には、表面水温は142°30'E以西の海域では、6~9 台で概ね平年並であった。142°30'Eより沖側の海域では8~12 台で、平年より概ね1~4 高めであった。100m深水温については、5~8 台で概ね平年並であった。雄勝沖合ラインでは、142°10'Eから142°30'Eの300m深付近に、3 以下の冷水の分布がみられ、巨理沖合ラインでも、400m深付近に約3 の冷水の分布が認められた。	5月には、沿岸海域(142°30'E以西)の表面水温は、10~14 台で平年並または平年より1~3 高めであった。沖合海域(142°30'E以東)の表面水温は、9~10 台で平年より1~3 低めであった。100m深水温については、沿岸海域では5~8 台で、概ね平年並であった。沖合海域では3~4 台で、平年より2~4 低めであった。142°30'E以東の200m深付近については、雄勝沖合ラインでは約3 の冷水の分布が認められ、巨理沖合ラインでは約2 の冷水の分布が見られた。 6月には、表面水温は12~19 台、100m深水温は6~14 台であった。表面水温は、38°30'~39°Nの142°30'E以東の沖合海域では平年より1 程度低めであったが、これ以外の海域では平年より1~2 高めであった。100m深水温は、38°~38°30'Nの142°30'E付近の海域で平年より1 程度低めであったが、これ以外の海域では1~3 高めであった。	142°E以東の雄勝沖合(38°30'N)ラインの142°E以東の海域及び、巨理沖合(38°N)ラインの142°Eから142°30'Eにかけての海域では、平年より低めで推移する。 沿岸寄りの海域では、平年並で推移する。 このほかの海域については、平年より高めまたは平年並で推移する。	「沿岸定線データを用いた宮城県沿岸海域の海況予測モデル」によって海況予測を実施した。(2007年6月)の類似年は1975年6月と2002年6月であった)	暖水性魚類の5月期の水揚げについて、クロマグロはほぼ昨年並であったが、カツオは988トン(前年比2,432%)と非常に多かった。 また、暖水性魚類のサワラでは、5月期の水揚げが163トン(前年比226%)と多く、石巻魚市場で3kg前後の大型魚が2千円/kg以上の高級魚として取扱われている。 サワラが多獲されているのは、仙台湾海域の今年5月の表面水温が昨年より2~4 高めに経過するなど海況の影響が大きいものと考えられる。

常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試 発表)	本県中南部海域を中心に黒潮系暖水の強い波及が継続し水温は高め基調で推移した。特に3月は本県中南部海域で50海里以内の水温平均年偏差は平年より極めて高めを記録した。親潮系冷水の波及は3月に本県北部海域にみられたが、4月には勢力が弱まった。	5月は本県南部海域では黒潮系暖水の波及が継続したが、親潮由来とみられる低温・低塩分な水塊が広く分布した。この水塊は6月には本県沖50～60海里を中心に分布し、期間を通して水温は平年並で推移した。	期間を通して親潮由来とみられる低温・低塩分の水塊の分布が継続するが、黒潮統流の流路変動に伴い、本県沖に一時的に黒潮系暖水の波及がみられる場合もあると予測される。 本県沿岸域の水温は平年並で推移すると予測される。	5月以降北からの冷水の波及傾向がみられたがその勢力は弱く、また親潮第一分枝は北退しその傾向が継続するとみられているため。統計的予測手法によると現状の傾向が持続し、沿岸水温は平年並で推移するとみられた。	3月に黒潮系暖水の非常に強い波及がみられ、距岸30海里以内の水温年偏差ではここ10年で2番目に高い値を記録した。 例年3～5月に本県南部で水揚がみられるオキアミは来遊がなく5月末まで水揚されなかった。
常磐南部 ～鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試 発表)	2月はごく沿岸域に南下流が卓越し、中旬から中旬にかけて断続的に暖水舌が形成された。表面水温は11～17で北部海域で「平年並」～「極めて高い」、南部海域で「極めて低い」～「高い」となった。また100m深水温は11～16で北部海域で「平年並」～「高い」、南部海域で「極めて低い」～「高い」となった。 3月は黒潮系暖水が沿岸域を広く覆った。表面水温は14～16で北部海域では「極めて高い」、南部海域では「やや低い」～「高い」となった。また100m深水温は11～15で「平年並」～「極めて高い」となった。 4月は初旬から中旬にかけて本県沖合の東経142°を黒潮系水が急激に北上した。表面水温は13～15で北部海域で「平年並」～「やや高い」、南部海域で「低い」～「やや高い」となった。また100m深水温は11～15で北部海域で「やや高い」～「非常に高い」、南部海域で「低い」～「高い」となった。 水温は海洋観測結果による。	5月から6月上旬にかけて、常磐北部から低温水が大規模に流入した。また、黒潮の流路が房総半島に接岸傾向で推移し、黒潮の北限緯度は平年並となった。 6月上旬の表面水温は、北部海域で13～17で「平年並」～「極めて低い」、南部で14～24で「やや低い」～「極めて高い」となった。また100m深水温は中北部海域で8～9で、北部沖合では5の親潮水が観測され、「平年並」～「極めて低い」となった。 一方、南部沖合を中心に15～21で、「平年並」～「極めて高い」となった。 水温は海洋観測結果による。	現在、親潮第1分枝は後退期にあり、親潮系冷水の影響は弱いと推測される。また、黒潮の房総半島における離接岸変動に伴い、6月上旬現在の本県沿岸域の南下流および冷たい海況は、徐々に解消する方向へ向かい、平年並の水温になると考えられる。	6月上旬の観測結果から親潮は後退期にあり、本県北部沖合に親潮水(水深100m.5)が存在するものの、その位置と現在の潮流から考察すると、本県沿岸部に流入することは考えにくいと考えられる。そのため、沿岸域に流入する低温水の影響は今後弱まると考えられる。 また、統計的水温予測モデルによれば、7月上旬の水温は平年より低めではあるが、徐々に冷水傾向が解消すると予測された。	5月中旬から6月現在までに、県内各地でアカクラゲが大量に定置網や流し刺網やまき網に入ったとの情報があった。 5月中旬から6月現在までに、マイワシとマサバの幼魚が混獲された。

各階級の水温年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	4.0 ~ +5.9	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	+2.5 ~ +3.9
やや高い(20%)	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	1.5 ~ +3.9	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	+1.0 ~ +2.4
平年並み(40%)	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	1.4 ~ -1.4	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	+0.9 ~ -0.9
やや低い(20%)	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	1.5 ~ -3.9	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	-1.0 ~ -2.4
低い(7.5%)	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	4.0 ~ -5.9	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	-2.5 ~ -3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~